

「やさしい日本語」と初級文法の接点

—日本人学生が選んだ「やさしい」形式—

1. はじめに

- 初級文法を母語話者コーパスと比較して見直す動き(庵・山内編 2015)
 - 接触場面では、母語話者はフォーリナートークを使うのではないかな？
- 母語話者が各場面で学習者に対して話す言葉がわかれば、意思疎通はできる。
 - それが最も必要性が高い。
- 目的=母語話者が産出した「やさしい」日本語と初級文法を比較する。

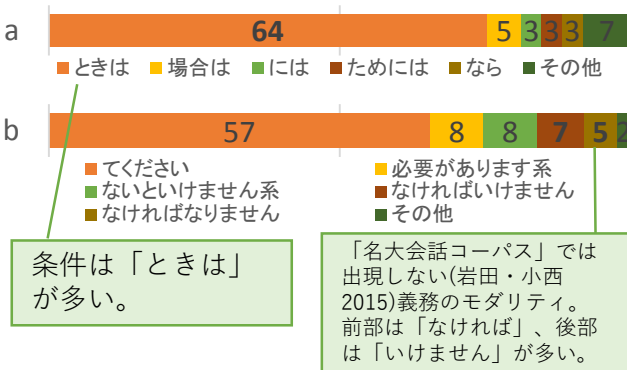
2. 方法

- 勤務校の教員養成の授業で「やさしい日本語」に関する講義を1コマ行った。(12の指針など)
- その翌週のテストで、保護者むけの文を「やさしい日本語」に書き替える問題を出した。
- 該当の問題の回答を分析対象とする。
- 調査は2016年度(a-d, N=85)と2017年度(e-f, N=66)に行った。

3. 結果と考察

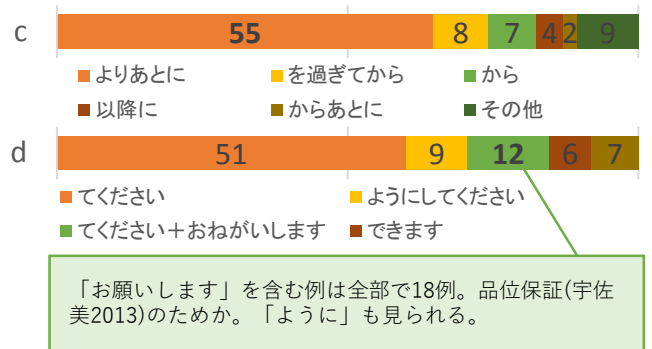
(1) 【条件】と【必要】

保健所で予防接種を受ける場合は、保護者が同伴する必要_bがあります。



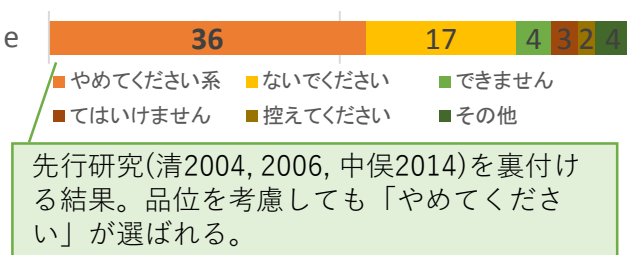
(2) 【以降】と【依頼】

八時三十分以降_cに、ご来場_dくださいますようお願い申し上げます。



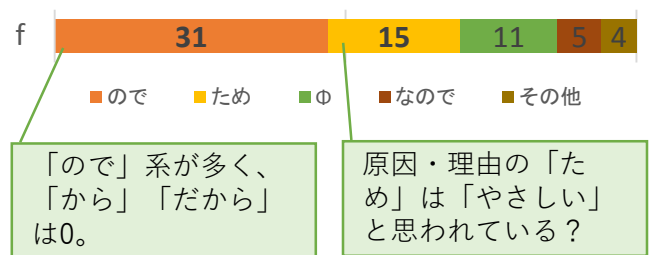
(3) 【禁止】

お車でのご来場はe_eご遠慮願います。



(4) 【理由】

7月20日から23日は、短縮授業期間f_fのため、給食は実施しません。



4. おわりに

教員志望の学生への調査で、品位保証への指向性が一環して見られた。「やさしく、ある程度丁寧」日本語が選ばれる。

- 研究手法としては誘出法に相当する。
- 義務モダリティや理由表現などコーパスとは異なる結果も。
- 原文の文体も影響する。
- 一般人の「やさしい」と日本語教師の「やさしい」は違う？
- この手法で明らかになることは多いのでは。